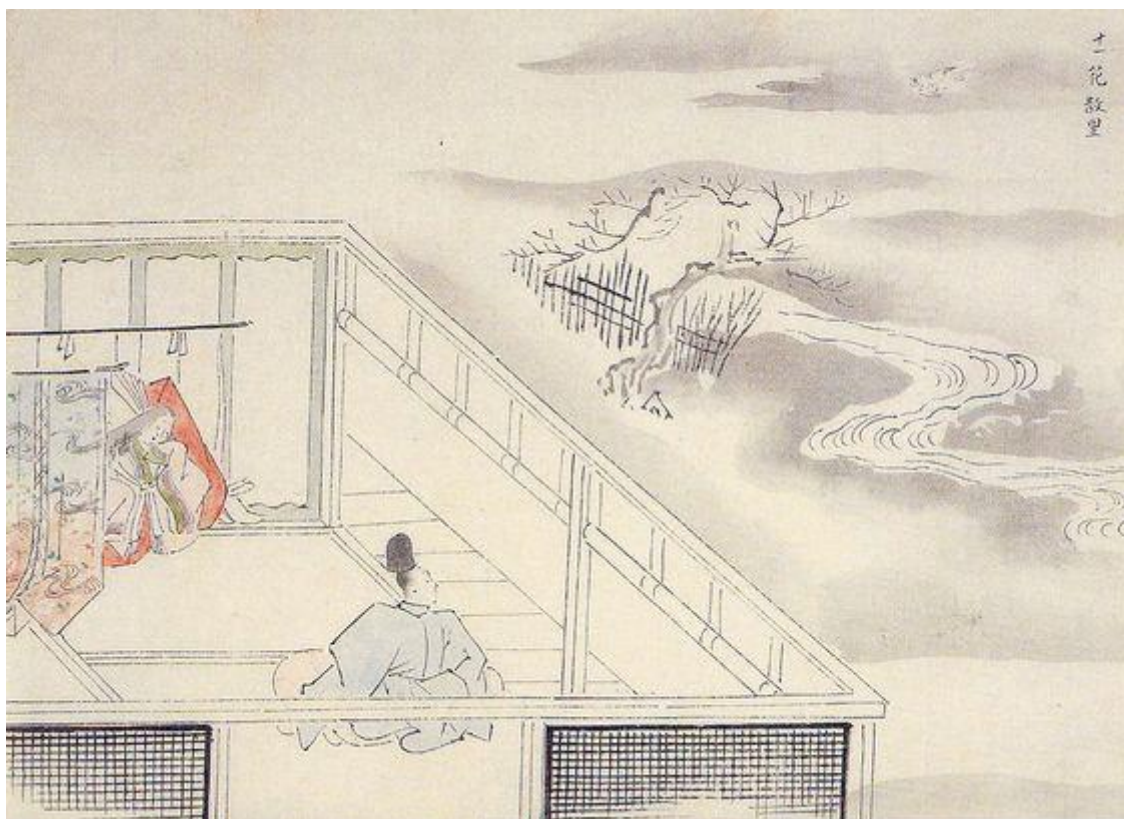


第115回貴重書展

源氏物語の夏



期間 平成19年6月12日(火)～7月7日(土)

会場 鶴見大学図書館1階エントランスホール展示コーナー

鶴見大学図書館

～ご紹介～

夏もまた

四季の優劣をあげつらうとき、春と秋をまず引き合いに出すのが万葉のむかしからのならわしです。ご存じの通り、紫の上は春をめ、六条御息所の愛娘は秋を好みました。勅撰集においても、春秋には

それぞれ2巻を用意しますが、夏と冬は1巻で片づけてしまうのが普通です。古今集の場合、春134首・秋145首に対し、夏34首・冬29首ですから、その冷遇ぶりははっきりしています。

しかしながら、時鳥を高く評価した清少納言が「しのびたるところにありては、夏こそをかしけれ」
「夏は、よにしらず暑き」と言っているのは当然として、紫式部もまた、東の釣殿における鮎・いしぶし料理や氷に興ずる若い女房達を印象的に描いていますし、なにより光源氏と藤壺の密会も柏木と女三宮のあやまちも夏に設定されているところを見れば、作者の夏に寄せるなみなみならぬ思いがうかがえるのではないのでしょうか。

さいわい期間中の6月23日、秋山虔先生の講演会が開かれます（日本文学会主催）。平安文学研究の泰斗秋山先生をお迎え出来ますことは、私たちの大きなよろこびです。このご講演が、展示を企画する機縁の一つとなったことは申すまでもありません。

今回の展示では、当館所蔵の源氏絵・表紙の意匠・古筆切等を中心に季節にふさわしい資料を選び、数多くの読者あるいは書物の作り手あるいは絵師たちが、源氏物語の夏にどうとりくんだかを御覧いただきたく、配列構成しました。流麗な筆の跡や装丁上の工夫などを通して、この世界的古典文学の新しい魅力をあげていただきたいと思います。願うものです。

例によって、当館の古典籍のみでは足りないところは本学教員に出陳を依頼しました。各位のご協力を感謝します。

平成丁亥林鐘中浣 文学部日本文学科教授 高田 信 敬

（解題は高田が担当しました。読み誤り・記述の不適切等ございましたら、お教えください。）

～展示リスト～

目 録

* = 個人蔵

I 夏の源氏絵

1 源氏物語絵巻 伝狩野探幽原図 天保2年(1831) 幽遠齋写 巻
子本3軸

(参考) 絵入源氏物語 慶安3年(1650) 跋山本春正刊 袋綴60冊

- 2 源氏物語絵 空蝉 江戸時代中期写 額装1面
- 3 源氏物語 明石 奈良絵本 江戸時代前期写 列帖装1冊
- 4 源氏物語の表紙絵(3種)
 甲:源氏物語 紺地金銀泥下絵升形本 江戸時代前期写
 乙:源氏物語 紺地金泥下絵四半本 江戸時代前期写
 丙:源氏物語 墨色地金銀泥下絵四半本 江戸時代前期写
- 5 源氏物語歌留多 江戸時代後期制作 塗箱入 108枚組
- II 名場面に描かれた夏
- 6 源氏物語 龍文刷外題升形本 江戸時代前期写 列帖装54冊
 (参考)伝花山院師賢筆 源氏物語歌集断簡 松尾切 台紙貼1葉 *
- 7 源氏物語 夕顔・紅葉賀・賢木 室町時代初期写 列帖装3冊
- 8 源氏物語 竹屋光忠筆 村井順博士旧蔵 江戸時代中期写 列帖装54冊
- 9 源氏物語 古活字版 寛永(1624~1644)中刊 袋綴54冊
- III 夏の景物と古注釈
- 10 原中最秘抄 江戸時代中期写 袋綴1冊
- 11 紫塵愚抄 卷1 室町時代後期写 袋綴1冊
- 12 弄花抄 卷1 室町時代後期写 袋綴1冊
- 13 明星抄 江戸時代前期刊 袋綴5冊
- 14 岷江入楚 伊達邦宗旧蔵 江戸時代後期写 袋綴20冊
- 15 源氏歌詞少々 室町時代後期写 袋綴1冊
- IV 古筆切の夏
- 16 源氏物語断簡 箒木 伝慶融筆 鎌倉時代後期写 青表紙本 台紙貼1葉 *
- 17 源氏物語断簡 空蝉 六半切(伝称筆者不明) 鎌倉時代末期写 台紙貼1葉
- 18 源氏物語断簡 夕顔 伊予切(今川了俊筆) 応永17年(1410)写 台紙貼1葉
 (参考)源氏小鏡 小堀鞆音旧蔵 墨流料紙使用零本 江戸時代前期写 卷子本1軸 *
- 19 源氏物語断簡 螢 鎌倉時代中期写 1葉 *
- 20 花鳥余情断簡 卷28 伝宗養筆 室町時代後期写 台紙貼1葉
 紫式部学会 後援